

## ILC（国際リニアコライダー）に関する最近の状況について

### 1 ILCに関する最近の動き

令和元年3月7日、国際研究者組織（ICFA：国際将来加速器委員会）の会議において、政府として初めて ILC計画への関心を表明。

#### 【要旨】

- 現時点で日本誘致の表明には至らないが、国内の科学コミュニティの理解・支持を得られるかどうかも含め、正式な学術プロセス（日本学術会議が策定するマスタープラン等）で議論することが必要である
- 国外においても、欧州素粒子物理戦略等における議論の進捗を注視する
- 日本学術会議の所見で課題等が指摘されている一方、一定の学術的意義を有するとともに、ILC計画がもたらす技術的研究の推進や立地地域への効果の可能性に鑑み、文部科学省はILC計画に関心を持って国際的な意見交換を継続する

2019年

- 5月 17日 高エネルギー加速器研究機構（KEK）が日米欧の研究者による国際ワーキンググループを設置  
研究者間で国際分担について検討を開始
- 6月 21日 「骨太の方針 2019」閣議決定 初めて、ILCを想定した記述が掲載される
- 7月 1～2日 日独、日仏の政府間ディスカッショングループ設置が合意（米国とは設置済）
- 10月 2日 KEKが「ILCプロジェクト実施に関する提言」を公表
- 10月 9日 日独ディスカッショングループ 第1回会合開催  
米国に引き続き、欧州との協議が開始
- 10月 28日～ 世界の研究者による国際会議LCWS（リニアコライダーワークショップ）2019が仙台市にて開催  
「ILCの建設及び科学的探求を国際プロジェクトとして推進することを改めて誓う」  
とする仙台宣言が採択される
- 11月 1日

2020年

- 2月 頃 日本学術会議のマスタープラン2020 策定予定
- 5月 頃 欧州素粒子物理戦略（欧州の中長期計画） 策定予定

### 2 岩手県の取組

#### (1) ILCを契機とした地域振興の推進

県では、令和元年7月に「ILCによる地域振興ビジョン」を策定し、ILC計画の準備期間（4年）、建設期間（9年）、運用期間と段階に応じ、取り組むべき事項を行程表としてリスト化しました。

県民一人ひとりの参画のもと、市町村をはじめ、関係者が連携して県全体で新しい時代を切り拓いていくことを目指します。

※ 右図の①～⑤が取り組む項目

#### (2) ILCに関する県民・国民理解の増進

- ・ ILC解説セミナーやシンポジウム等の開催
- ・ 全国イベントでのILCの情報発信

#### (3) 関連産業の振興

- ・ 技術セミナーの開催や研究開発支援
- ・ 企業参入に向けたマッチング支援

【いわて県民計画（2019～2028）に掲げる「ILCプロジェクト」の具体的取組】

